

第1回 豊かなコミュニケーションを目指して！
2025/11/30 **～伝えたい事が伝えたい人に伝わっていますか？～**

今回はコミュニケーションがテーマ。講座ではPゼミの皆さんも実際にあそびを体験しました。「楽しいあそびにはルールが必要ですが、あそびのルールは皆さんで作って変えられるものです。子どもはあそびの中でコミュニケーションのトレーニングを重ねているのです。コミュニケーションは個人の資質ではなく、関係づくりのものの中にあり、人とかわらなければ身につかないのです。自分の興味関心に向かい、相手を思いやる想像力が発揮された時に、お互いが心地よくなる、そんなコミュニケーションをこの連続講座で感じていきましょう」と講師の北さんよりお話がありました。



第1回 講義 少し緊張気味

第2回 ともに響きあうかかわりをつくらう ～子どもの声を聴くこと～
2025/12/13

まず「あそび」を実践していきました。あそんで何が楽しかったのか？ Pゼミの皆さんから「楽しい」と笑顔になる、「大人が全力になった」「自由で正解がない」「創造するあそび」など意見がでました。あそびをとおして、違った意見を面白がり、グループで表現することを体験しました。「コミュニケーションとは個人の能力でなく、関係づくりのもの」ということを講座で学びました。どんな関係づくりにしたいのか？ またかかわりたいという意欲を高めるには3つのエンジン「安心」「興味・関心がある」「他者に思いを馳せる想像力」が必要だそうです。様々なあそびは相手とかかわる関係づくりの練習になっているのです。



第2回 輪になってのグループワーク

第3回 あそんで学ぶ 子どもの権利 ～あそびの中に権利あり～
2026/1/17

今回は「子どもの権利条約」についてです。北さんからは条約には以下の3つのフィルターが大事と学びました。

- ① お互いが安心できること
- ② 自分以外の他者も納得すること
- ③ 合意・同意(当事者同士で決められる、だれも排除されない)

「大きなかぶ」のワークショップでは、「抜きたい」あなたと「抜かれたくない」かぶの2つの権利がぶつかりました。どうしたら「かぶ」がその気になり安心して抜かれる合意にいたるのかをあげました。

- あなたなら大丈夫、あなたがいい！と言われた
- 子どもの役にたつ
- 安心感
- 抜かれた後でワクワクするような想像・今の状態を認めてくれる
- 要求の受け入れ
- 代替案 抜くけどまたすぐ植えて大事にする
- 自分しかできない
- 他者との違い

こういうことがうれしくて、人が動くのだと思います。また「違う可能性の新しい道」を示すのも学ぶという権利を保障するのにとても大事なことです。大きなかぶのワークは、権利の真理を示してくれました。



第3回 楽しいあそびもやります！



第3回 「大きなかぶ」のワーク

第4回 学習発表会準備・リハーサル ～ともに作ってあそぼう～
2026/2/14

当日の流れを確認しました。ステージでの発表後、ブースでは、来場者とあそび、関係性をつくり、わたしたちの考える「子どもの権利」を選んでもらい、ベスト5を調査することにしました。子どもと大人でどんな意見が出るのか、ワクワクします。学びで培ったコミュニケーションで来場者とのやりとりもお互い楽しめるとよいですね。



第4回 リハーサルの様子

ふりがえり 2026/3/1

豊かなコミュニケーションには響関(きょうかん)が大事と学んできました。「あなたにとっての響関とは？」をグループで話し合った後、北さんからお話がありました。「シンプルに言うとう響関するとは、その場に一緒にいて、面白がりながらかわるということ。響関は今、目の前で起きていることと興味を持ち、何を面白がり、心響き動かされたのか、それらが全て認められる懐の深さがあります。それが正解かどうかより、あなたの心がどう感じたかが大事なのです。皆さんがワークを受けながら感じ学んだことは、決して答えを固定化させないこと・自らが面白がってそこに混ざってみること・そこに交わり自らの内から湧き上がる声に耳を傾けそれを表現して広がっていくこと。そんな世界だったのでないでしょうか。」お話は続きます。「また響関するために、私たち大人は子どもと向き合う心と体と頭の体力が必要になります。今回の講座はそのトレーニングになったと思います。豊かなコミュニケーションにするためにもう1つ大事な視点があります。それは子どもの発達の手筋です。子どもの発達には順番があり、そこに飛び級はなく1つ1つ階段を時に行ったり来たりしながら上がっていくのです。皆さんの日常の中で他者とかかわり方がより豊かになっていくことを心から願っています。」と北さんからまとめがありました。

活動をふりがえっての Pゼミメンバーの気づき

- 子どもは大人の準備期間ではないということが響いた。個を大事にしたい。
- 自分や相手の思いを伝えあうことが大事と学んだ。夫婦でも実践していきたい。
- 驚きと気づきの繰り返しの講座だった。気持ちを再スタートできるよい機会だった。
- 子どもの権利条約に触れてみて、見守りながら子どもにもかかわりたいと思った。
- 決められたルールの中での1位を取るのが大事と思って子育てしてきたがPゼミに参加して、ルールを話し合っで変えていくというのが大事だと気持ちが変わった。

令和7年度 **活動報告書**



としまPゼミ(家庭教育推進員)とは？

昭和54年度から続く、豊島区独自の事業です。これまではPTA会長からの推薦で選出されていましたが、今年度からは公募制になりました。令和7年度は「コミュニケーションが育む未来～おとなと子どもが響きあう『響関力(きょうかんりょく)』とは？～」をテーマに北島尚志さん(北さん)を講師に迎え、全5回活動。あそびをとおしてコミュニケーションや子どもの権利について学び、体感してきました。学習発表会では初めて「生涯学習フェスティバル」とコラボ開催。かわりの中で育まれるコミュニケーション力や、「あそび」とおして高めるワークショップをしました。Pゼミの考える「子どもの権利」では、おとなと子どもでどう思いが違うのか来場者に話を色々聞きながら調査しました。この記録誌ではそんなとしまPゼミの様子をご紹介します。

● Pゼミを終えて 講師の北さんより ●

コミュニケーションをテーマにはじまったPゼミ。「P」はペアレント？パワー？プレゼント？等と思いつつもワクワクして会場へ。まばらな参加者が緊張気味に座っていました。あれから半年。たくさん笑って、たくさん考えて、たくさん動きまわったね。コミュニケーションは私とあなたの間にあると何度も何度も積み、私が私の声(言葉)を持ち、あなたの声(言葉)を聞くそんな時間になりました。今はPLEASANT(プレズント) 愉快で心地よいの「P」だと感じています。

本当にありがとうございました。そして、いつかまたどこかで！

